

(様式2)

平成28年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立恵那高等学校

学校番号 49

I 自己評価

1 学校教育目標	質実剛健・自重自治の伝統精神を基調とし、進取闊達にして知性と情操豊かな民主国家の形成者を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇SSH (スーパーサイエンスハイスクール)	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度からの第Ⅲ期では論理的思考力の育成のため「ディベート」学習を中心に課題研究に重点を置き、指導を進めている。意識調査(理数科全学年)において「科学技術に関する興味・関心・意欲が増した」と85%以上の生徒が回答している。また1年生で、地元の研究所、企業と連携し、データの科学的分析と、英語によるプレゼンテーションの発表と質疑応答を行った。生徒らは、客観的に考える方法と工夫が言語によらず重要であると捉え、英語を使いこなす必要性を再認識した。 学校独自アンケート(理数科1年生)ではSSH指定校であることが本校理志望した「第一の理由」または「理由の一つだった」と回答した生徒の割合がこの3年間80%と高い割合である。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇「論理的思考育成プログラム」により思考、判断及び表現における客観性と論理性を育成する。 ◇課題研究を通して課題発見能力と問題解決能力、独創性を育成する。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 理数科部内にSSH実行委員会を置く。 SSH実行委員会は必要に応じて、各分掌、教科、学年と連携する。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) コミュニケーション能力の育成 (2) 地方の高校で可能な国際性の育成 (3) 課題研究 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒意識調査 連携先・保護者・教員へのアンケート 運営指導委員会による指導 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> (1) スーパーサイエンスAにおいて、探究のスキルの向上と論理的思考能力を育成した。 (2) 課題研究において、探究的活動と問題解決能力、課題発見能力の育成、成果の普及の実践を図った。 (3) スーパーサイエンスBにおいて、科学への興味関心の喚起を図った。 (4) ssENAにおいて科学とコミュニケーションに対する興味と関心を深める活動を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「論理的思考育成プログラム」による客観性と論理性の育成 ②「課題研究」やものづくりによる課題発見能力や問題解決能力の育成 ③「地域や海外の学校との連携」による社会観や国際感覚、言語能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	<p>○ 13年間の研究開発で明らかになった結論は、科学技術系人材育成の本質とは「論理的思考力の育成」であり、そのために効果的なプロセスこそが「課題研究」である。13年間のSSH指定期間で多様化した事業に対し第3期の課題はこれらを体系的に整理し、「生徒がより意欲的・主体的に取り組み、将来の研究や技術開発に生かされる資質を身に付けることができる学習活動」とすることであった。この課題に対して、科学への興味関心を高める魅力ある学校設定科目と課題研究の展開のための改善を図った。</p> <p>○ 研究活動を通して、研究者や技術者を志す生徒や、課題研究の成果を深めることができる学部、学科へ進学を決める生徒が増加した。</p> <p>▲ SSH事業を進める上で、教育課程や理数以外の教科との関係をより明確にする必要がある。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 恵那高校SSH第Ⅳ期の初年度である(申請が通った場合)。13年間の成果を検証した新しい実施計画に基づき、地域の基幹校として成果を普及する必要がある。以下の観点から、事業に取り組んでいく。また、経過措置、もしくはそれを含めたSSH指定がない場合は、更に実施計画を練り直していかねばならない。 ①目的: SSH事業の目的を踏まえて、どのような人材を育成するか。また、高校3年間でどのような資質・能力を育成するのか。 	

- ②目標：目的を踏まえて、指定期間中に達成すべき具体的な目標は何か。
- ③研究開発の内容・実施方法・検証評価：仮説を踏まえて、具体的にどのような実践を行うか。

II 学校関係者評価

実施年月日：平成29年1月25日

【意見・要望・評価等】

- ・「仮説を立てて実験を行いまとめる。そしてそこでまた課題を見つける。」という取組で、この経験が大事だと思う。参観生徒からの厳しい質問に答えることもよい経験になると感じた。
- ・科内発表は皆一生懸命やっていて素晴らしい。発表を聞いている側の真剣な様子を見ると恵那高生だなと感じる。生徒の力を高める方法をとってもらっている。
- ・昨年参観させてもらったときも、生徒がSSHの事業に生き生きと取り組んでとても楽しそうだった。SSHの指定が終了することで入学者数に影響はあるだろうか・
- ・文系志望の生徒にとって理数科の授業はやりにくくないか。
- ・SSH事業で、大学教授、第一線で活躍される研究者の方々のお話を聞けることはものすごく刺激になる。文系・理系を問わず大きな影響があり、今後の勉強の支えになる。その意味で、指定13年間の取組は一定の成果があり、継続できると良い。